

観光地PR 若者担う

県立大生に「アテンダント」 通訳ガイドやSNS投稿

若い世代に県内の観光地をPRしてもらうと、県は6日、県立大(総社市窪木)の学生26人に本年度創設した「アテンダントアテンダント(学生通訳ガイド)」を委嘱した。外国人観光客のガイドやSNS(会員制交流

後楽園のスタッフ(左)からガイドをする際の注意点を学ぶ学生たち



サイト)を使った情報発信に当たってもらった。委嘱されたのは、同大で英語を使ったコミュニケーションを学ぶ1〜4年生。今後県内の観光地で数回の実務研修を受けた上で、新型コロナウイルス後を見据えた県のインバウンド(海外からの誘客)事業でガイドを担当する。SNSでは個人や

さんデジに動画

県観光連盟のアカウン
トを使い、各地の写真
や動画を投稿する。

この日、県庁での委
嘱状交付式を終えた学
生たちは、岡山市の後
楽園で初回の研修に臨
んだ。唯心山や鶴鳴館
といった園内の名所を
巡りながら、同園のス
タッフから園の歴史や
ガイドをする際の注意
点を学んだ。
2年の川端美志乃さ

ん(20)は「将来は留学
ムードになったら、岡
も考えており、大きな
山の魅力を精いっぱい
経験になる。コロナ後
発信したい」と話した。
(南原久人)